

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担 当 課	KPI（成果指標①）								KPI（成果指標②）								R7当初 予算額 （千円）	R7決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性				
					指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値		R7実績値	達成率	指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値							R7実績値	達成率		
Ⅰ「稼げるまち」の実現																													
スタートアップの創出・ 成長（社会課題解決に資 する企業の育成・支援）	1	地域未来投資 促進法を活用 した産業用地 整備推進事業	製造業等の企業誘致を推進 するため、高速道路インター チェンジや幹線道路に近いな ど、産業用地として競争力が 高い地区について、地域未来 投資促進法の活用等による民 間開発を促進し、産業用地の 整備を推進する。	企業誘 致課	地域未来投 資促進法を 活用した産 業用地創出 面積	～R7	0	ha	R10年度 までの 目標： 20ha	単年度 目標設 定なし		0	ha	—									6,300	5,508	概ね 順調	令和7年度までに地域未来投資促進法の手続 きに3件着手することができたほか、開発事業 者等からの問合せが約70件あり、このうち具体 的な開発計画の相談を受けているものが10件以 上あることから、令和10年度までに20ha確保の 目標に向け、「概ね順調」と判断した。 引き続き、民間事業者と協調しながら取組を 進めていきたい。	継続		
	2	企業変革・ス タートアッ プ・グロース サポート事業	市内スタートアップの成長 加速化を促進する「成長支援 プログラム」と、スタート アップによる行政課題解決や 市内企業との協業を促進する 「イノベーション支援プログ ラム」によって、スタート アップに対し資金支援・伴走 支援を実施する。 また、北九州市の様々な課 題とスタートアップをマッチ ングし解決する共創プラット フォームを運用する。	スター トアッ プ推進 課	支援先ス タートアッ プの新規雇 用人数（市 内）	—	—		—	10	人	17	人	170.0%									94,812	94,846	順調	支援するスタートアップの社数（目標:6社、 実績:7社）、支援先スタートアップの市内にお ける新規雇用人数とともに、目標値を上回ってい るため、「順調」と判断。	継続		
	3	スタートアッ プ起業家育成 サポート事業	学生を対象とした起業家を 育成する体験プログラムを実 施するとともに、北九州市か ら起業家を輩出し育成する民 間主体のアクセラレーション プログラムの取組に対する助 成などを通じて、北九州市内 でのスタートアップ創出に取 組む。	スター トアッ プ推進 課	起業に関心 を持った生 徒の割合	R5	60.0	%	—	70.0	%	84.0	%	120.0%									5,000	2,345	順調	市内の小・中学生を対象に起業家との出会 い、社会課題の解決アイデアを考えるワーク ショップを通じたアントレプレナーシップ（起 業家精神）醸成のプログラムを実施する際に、 女性起業家支援に係る事業と一体的に行うこと により、実施校を増やすことができた。 その結果、起業に関心を持った生徒の割合 が、目標を達成したため、「順調」と判断。	継続		
	4	北九州テレ ワークセン ター管理運営 事業	創業支援の中核施設とし て、資金の乏しい創業期の企 業に安価な小規模オフィスや コワーキングスペースを提供 するとともに、創業相談や事 業拡大支援、起業家や起業を 目指す方の交流、各種セミ ナーなどを実施し、北九州市 の創業シーンの活性化を目指 す。	スター トアッ プ推進 課	施設入居率	R5	97.0	%	—	95.0	%	96.0	%	101.1%									103,180	92,140	順調	相談受付件数については目標を下回ったもの の、令和6年度より増加している。 また、指定管理者の持つ知見やノウハウを活 かした効果的な運営により、高い入居率を維持 しているため「順調」と判断。	継続		
	5	スタートアッ プ成長支援 ファンド事業	スタートアップの資金調達 ニーズに対応するため、ファ ンドへの出資や、ファンドを 運営するベンチャーキャピ タル等と連携したハンスオン支 援により、北九州市のスター トアップ等への成長支援を実 施する。	スター トアッ プ推進 課	投資先ス タートアッ プの新規雇 用人数（市 内）	—	—		R16年度 までの 目標： 10人	単年度 目標設 定なし		1	人	—									100,000	100,050	概ね 順調	令和7年度は、9Capital合同会社が組成・運 用するスタートアップ投資ファンドに、市から 1億円の出資を行い、ファンドから市内スター トアップ1社に対して投資を実行した。 今後は、ファンドを運用するベンチャーキャ ピタルと連携し、投資案件の掘り起こしや、投 資先スタートアップの成長支援を行うという課 題があるが、令和7年度は、投資先スター トアップが他のベンチャーキャピタルからも資金 調達を行い、市内で雇用を創出したことから、 「概ね順調」と判断。	継続		
若者と企業とのマッチ ングによる人材確保	6	若者ワーク プラザ北九州、 U・Iターン 応援プロジェ クト運営事業	概ね40歳までの若年者及び 就職氷河期世代の求職者を対 象に、就業相談、各種就業関 連情報の提供、セミナー、職 場体験、職業紹介等の実施に より、若年者の就業支援を実 施する。 U・Iターン応援プロジェクト では、市外からのU・Iター ン希望者と市内企業とのマッ チングを支援し、市外からの 人材還流及び市内企業の人材 不足解消を目指す。	雇用・ 産業人 材政策 課	就職決定者 数（プラ ザ）	R5	935	人	—	1,300	人	1,067	人	82.1%	就職決定者 数（UI）	R5	234	人	—	300	人	298	人	99.3%	134,129	132,379	概ね 順調	若者ワークプラザ北九州では、概ね40歳ま での若年求職者を対象に、就職相談、就業関連情 報の提供、セミナーの開催等を通じて就職支援 を実施した。大学・専門学校等へPRを強化し、 利用促進に取り組む。 U・Iターン応援プロジェクトでは、U・Iター ン就職希望者と市内企業をつなぐ本市独自の取 組として、専任コンサルタントによるカウンセ リングや新規求人の発掘を実施した。 令和8年度も年間を通じたイベントや職場体 験ツアーの実施、同窓会ネットワークを活用し た積極的な情報発信を行い、U・Iターン就職の 促進を図る。	継続

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担 当 課	KPI（成果指標①）								KPI（成果指標②）								R7当初 予算額 （千円）	R7決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性				
					指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値		R7実績値		達成率	指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値						R7実績値		達成率	
	7	学生の地元就職促進事業	大学生等のインターンシップや高校生の就職ガイダンス等の実施を通じて、生徒・学生と地元企業との出会いの場を広く提供するほか、民間プラットフォームを活用し、市内出身者やゆかりのある方への情報発信や地元企業との交流を図る。	雇用・産業人材政策課	新卒学生の地元就職率	R4	35.7	%	R10年度までの目標：40.0%	36.9	%	35.0	%	94.9%									17,500	19,062	概ね順調	北九州商工会議所や地元企業、市内大学等と連携し、インターンシップやバスツアーの実施の他、工業高校生を対象とした就職ガイダンスなどの企業研究イベントの開催等に取り組んだ。 令和8年度は、新たに専門学生を対象とした就職ガイダンスを開催するなど、学生と企業の交流の機会を創出していく。	継続		
	8	北九州ゆめみらいワーク事業	「仕事」と「学び」をテーマとした体験・交流イベントの開催を通じて、若者のキャリア形成や将来の市内就職につなげる。 開催10回目にあたり、様々な職業についての学びや理解がより深まるよう、充実した体験プログラムを展開する。	雇用・産業人材政策課	イベントの感想を「良かった」「大変良かった」と回答した出展者の割合（アンケート：毎年度）	R5	95.0	%	R10年度までの目標：95.0%	95.0	%	92.0	%	96.8%	イベントの感想を「良かった」「大変良かった」と回答した来場者の割合（アンケート：毎年度）	R5	89.0	%	R10年度までの目標：89.0%	89.0	%	95.6	%	107.4%	40,000	41,883	概ね順調	北九州市内に事業所等がある企業や団体、大学等が工夫を凝らしたブースを出展し、中学生や高校生が仕事体験を行い、社会人や大学生等との交流を行うイベントを実施した。 令和8年度も、様々な職業に対する学びや理解がより深まるよう、新たなコンテンツの強化に取り組むとともに、リアルな職業体験の実施や開催日の拡張を通じて、イベント内容のさらなる充実を図る。	継続
	9	地域の人事部支援事業	若い世代の人材不足が強まるなか、採用にコストや人を割けない中小企業では、人材確保が困難な状況にあるため、企業合同による人材の発掘からマッチングづくりを一気通貫で支援し、若手人材の確保と定着を図る。	雇用・産業人材政策課	最終選考候補者数	—	—	—	—	30	人	20	人	66.7%									25,000	24,887	やや遅れ	市内企業の人事担当者と市内外の大学生が交流を深めるワークショップを全14回実施した。それに加え、参加企業の福利厚生や働きやすさ等の自社の魅力をPRする「福利厚生コンテスト」や、学生と企業との運動会を開催するなど、学生の地元就職への確度を高めるプログラムを展開した。 地元企業の認知度を高めるとともに、地元就職にも着実に繋がっているが、最終選考候補者数が20人となり、目標値である30人に届かなかったことから、「やや遅れ」と判断した。	継続		
女性のキャリア形成支援	10	みらいのわたし応援事業	女性の自分らしい生き方・働き方の実現に向けて、様々な環境の女性やロールモデルとの交流、多様な働き方の学び、パソコンスキル習得と企業のマッチングなど、一体的に支援する。	雇用・産業人材政策課	ウーマンワークカフェ北九州就職決定者数	R5	624	人	—	700	人	595	人	85.0%									15,000	13,454	概ね順調	様々な環境の女性やロールモデルとの交流、多様な働き方の学び、パソコンスキル習得や企業とのマッチングなどを実施した。 ウーマンワークカフェ北九州就職決定者数が目標値の8割を上回ったため、「概ね順調」と判断。	継続		
女性が働き続けることができる就労環境の整備の支援	11	ウーマンワークカフェ北九州運営事業	国・県・市の3者が緊密に連携し、就職、キャリアアップ、創業、子育てとの両立など、女性の職業生活における活躍をワンストップで総合的に支援する「ウーマンワークカフェ北九州」を運営する。	雇用・産業人材政策課	ウーマンワークカフェ北九州就職決定者数	R5	624	人	—	700	人	595	人	85.0%									31,316	30,566	概ね順調	国や県などの関係機関と連携して、「ウーマンワークカフェ北九州」を運営し、就業や子育てとの両立など女性の職業生活における活躍をワンストップで総合的に支援した。 ウーマンワークカフェ北九州就職決定者数が目標値の8割を上回ったため、「概ね順調」と判断。	継続		
	12	北九州発！「女性が輝くリーディングカンパニー」創出事業	女性が働きやすい先進的な職場環境づくりを支援するため、市内中小企業が行うパウダールーム等の導入や女性活躍に向けた専門家によるコンサルティング等の費用の一部を助成する。	中小企業振興課	支援企業のうち、女性の新規雇用を行った企業割合	—	—	—	R9年度までの目標：100.0%	単年度目標設定なし	100.0	%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15,000	13,764	順調	女性活躍のモデル事例となり得る取組を支援し、市内の他企業への波及を図るため、パウダースペースの設置や就業規則の改正等に要する費用の一部を助成した。 成果目標を達したため「順調」と判断。	廃止		
	13	女性活躍職場の拡大に向けた広報・専門家派遣事業	女性に魅力のある職場づくり支援と女性の就業率向上を図るため、市内企業の女性活躍に関する先進的な取組を発信するほか、人手不足や女性採用に課題を持つ企業に対して専門家の派遣等を行う。	中小企業振興課	女性の就業率の向上	R4	79.8	%	R10年度までの目標：82.0%	単年度目標設定なし	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3,000	2,602	やや遅れ	女性が働きやすい職場環境の整備による人手不足の解消や経営者の意識改革を促すため、女性活躍に関する先進的な取組を行う6社を特集した冊子を作成し、広報したほか、女性の採用等に課題を抱える企業1社へ専門家を派遣した。 事業全体の達成率が53.9%にとどまったため、進捗状況は「やや遅れ」と判断。	廃止		

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担 当 課	KPI（成果指標①）								KPI（成果指標②）								R7当初 予算額 （千円）	R7決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性		
					指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値		R7実績値		達成率	指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値						R7実績値	
多様な人材（高年齢者、 外国人）の活用による人 材確保	14	外国人材活 用の普及・啓 発事業	海外において優秀な外国人 材獲得のチャネルを拡充する とともに、外国人材の雇用を 必要とする市内企業への需要 喚起、課題解決支援及び就職 後の定着支援を行う。	雇用・ 産業人 材政策 課	北九州地域 の外国人労 働者数	R5	9,183	人	R11年度 までの 目標： 11,000人	11,280	人	12,480	人	110.6%									22,200	19,233	順調	外国人材の導入支援企業数は552社で、目標 値の600社に届かなかったが、北九州地域の外 国人労働者数は目標値（11,280人）に達したた め、「順調」と判断。	継続
	15	高年齢者就業 支援センター 運営事業	元気で働く意欲のある高年 齢者が、豊かな経験や能力を 生かし、生涯現役でいきい きと働けるように、就業相談 やキャリアカウンセリング、資 格取得サポートを実施する とともに、シニア・ハローワ ークなど各種支援機関と連携 してワンストップで就職支援 を行う。	雇用・ 産業人 材政策 課	高年齢者就 業支援セン ター就職決 定者数	R5	1,096	人	—	1,250	人	912	人	73.0%									31,857	29,669	やや 遅れ	高年齢者を対象とした就業相談、職業紹介、 各種セミナー等を実施し、就業支援を行った。 就職決定者数は912人となり、目標値1,250人 の約73%にとどまったことから、「やや遅れ」 と判断した。	継続
バックアップ首都構想の 推進	16	北九州市産業 振興未来戦略 推進事業	「稼げるまち」の実現に向 けて、「北九州市産業振興未 来戦略」の実効性を高めるた め、「北九州市成長戦略会 議」におけるKPI達成に向けた 戦略全体の進捗管理及び「官 民対話テーブル」における リーディングプロジェクトの 推進を図る。	産業政 策課	市内総生産	R2	3.7	兆円	R15年度 までの 目標： 4.0兆円	単年度 目標設 定なし		3.8	兆円	—									3,000	1,145	概ね 順調	令和7年度は、稼げるまちの実現に向け、経 済界と行政が一体となり、街ぐるみで「北九州 市産業振興未来戦略」を推進するべく、令和6 年度に続き2回目の「北九州市成長戦略会議」 を開催し、構成員より意見を聴取した。 事業目標（市内総生産4兆円）に対し、達成 率95.0%（3.8兆円）のため、「概ね順調」と 判断。 引き続き、街ぐるみで取組を推進していく。	継続
	17	企業立地促進 補助金	企業誘致のインセンティブ とするため、企業に対し、設 備投資額、雇用人数に応じ、 補助金を交付する。	企業誘 致課	企業誘致に おける新規 雇用創出数	R元 ～R5	4,335	人/ 累計	R6～R10年 度 までの 目標： 累計5,100 人	単年度 目標設 定なし		2,773	人/ 累計	—									1,723,000	1,718,002	順調	半導体や次世代自動車、蓄電池などの「未来 産業」を中心に、企業誘致に取り組んでいる。 企業のニーズに応じた具体的な提案や誘致支援 により、誘致件数（177件）と新規雇用創出数 （2,773人）ともに増加傾向にあるため順調と 判断。 今後も引き続き誘致活動に取り組んでいく。	継続
未来産業の推進（半導体 産業、次世代自動車産 業、宇宙産業）	18	「稼げるま ち」への原動 力～未来産業 推進事業～	「稼げるまち」の実現に向 け、北九州学術研究都市を中 心に、半導体や宇宙、次世代 自動車などの未来産業につい て、研究開発や人材育成、企 業競争力の向上などに取り組 み、先端企業の集積や地域産 業の高度化、新ビジネスの創 出を図る。	未来産 業推進 課	先進企業の 集積	R5	7	件	R12年度 までの 目標： 20件	単年度 目標設 定なし		13	件	—									140,882	126,013	順調	北九州学術研究都市を中心に、未来産業分野 である半導体や宇宙、次世代自動車分野の研究 開発の助成や、高度人材育成、ビジネスマッチ ングの支援に取り組むとともに、首都圏での フォーラム開催等を通じて先端企業の集積を推 進した結果、R7年度は中期目標から見て「順 調」と判断。 今後も変化する産業構造を的確に捉え、稼げ るまちを目指した取組を行っていきたい。	拡充
学術研究都市2．0戦略	19	「稼げるま ち」への原動 力～未来産業 推進事業～	「稼げるまち」の実現に向 け、北九州学術研究都市を中 心に、半導体や宇宙、次世代 自動車などの未来産業につい て、研究開発や人材育成、企 業競争力の向上などに取り組 み、先端企業の集積や地域産 業の高度化、新ビジネスの創 出を図る。	未来産 業推進 課	先進企業の 集積	R5	7	件	R12年度 までの 目標： 20件	単年度 目標設 定なし		13	件	—									140,882	126,013	順調	北九州学術研究都市を中心に、未来産業分野 である半導体や宇宙、次世代自動車分野の研究 開発の助成や、高度人材育成、ビジネスマッチ ングの支援に取り組むとともに、首都圏での フォーラム開催等を通じて先端企業の集積を推 進した結果、R7年度は中期目標から見て「順 調」と判断。 今後も変化する産業構造を的確に捉え、稼げ るまちを目指した取組を行っていきたい。	拡充
	20	学術研究都市 管理運営事業 （指定管理）	民間等のノウハウを最大限 に生かすことにより、利用者 の多様なニーズに応え、市民 サービスの向上を図り、多様 で効果的な施設運営を図る。	未来産 業推進 課	産学連携施 設の入居率	R5	64.1	%	—	65.0	%	70.4	%	108.3%									784,620	780,620	順調	これまでのノウハウを活用し、ハード・ソフ ト両面での一体的な管理運営を通じて効率化と コスト削減を図った。また、アンケート等によ り利用者の声を把握し、利便性向上や環境改善 に繋がった結果、産学連携施設への新規入居企 業数が前年度の6件から13件へ大幅に増加し、 目標値を達成しているため「順調」と判断。 今後も入居者や一般利用者の視点に立った使 いやすい施設運用を追求するとともに、多様な ニーズを柔軟に反映させることで、利便性のさ らなる向上に努めていきたい。	継続

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担 当 課	KPI（成果指標①）								KPI（成果指標②）								R7当初 予算額 （千円）	R7決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性			
					指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値		R7実績値		達成率	指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値						R7実績値		達成率
物流拠点化の推進	21	半導体等サ プライチェーン 構築事業	九州への半導体関連投資の増加による輸送需要増を新たなビジネスにつなげるため、北九州市につながる荷の流れを生み出し、輸送ネットワークを構築することで、九州における半導体サプライチェーンを支える「半導体物流ハブ」の形成を図る。	企業誘致課	流通加工機能を備えた大型物流施設の立地箇所数	R5	0箇所		R7	1箇所		1.0箇所		100.0%										14,000	12,939	順調	本事業を通じて、物流機能の強化及び集荷促進に向けた基盤づくりに取り組み、本市を輸送拠点の一つとする半導体製造装置の新たな荷の流れを創出した。 また、「流通加工機能」を担うことができる大型物流施設が、令和6年度に1件操業を開始したことに加え、他にも、新たな大型物流施設の建設に向けた手続きが複数進行しており、「順調」と判断。 今後も大型物流施設の誘致・集積を図り、物流拠点都市としてのプレゼンス（存在感）を高めていく。	廃止
	22	九州発貨物の集約拠点化支援事業	九州の発貨物を北九州市に集積させる取組に対する支援として、北九州市中央卸売市場等における農産物を集約した首都圏又は関西圏向けフェリー輸送に対し、必要となる経費の一部を補助する。	企業誘致課	九州発農産物の集約拠点化	R5	R5.11月より中央卸売市場内のストックポイントが稼働		R7	ストックポイントの稼働率向上		ストックポイントの稼働率低下		—										5,844	506	概ね順調	令和7年度は、農作物の生産状況が低調等の理由により、前年度を下回るトラック運行回数となった。荷量の減少により、ストックポイント（集約拠点）の稼働率低下の要因ともなった。一方で、「物流の2024年問題」の影響によりモーダルシフトが加速し、フェリーにおける平日の積載状況はほぼ満載となっている。 このことから、北九州市を集約・中継拠点とする輸送の効率化が着実に進展していると考え、「概ね順調」と判断。 今後は、本事業を契機に北九州市を拠点とした荷の流れの定着につなげていく。	廃止
企業変革や企業規模拡大など地域中核企業の成長促進	23	「未来を担う地域中核企業」成長促進プロジェクト	将来の成長の糧となる新規事業創出など、新たなチャレンジに対して総合的・集中的支援を行うことにより、企業変革や企業規模拡大を図り、市内の「地域中核企業」の成長を促進する。	産業政策課	新規事業着手等企業成長に取り組む企業数	—	—		R10年度までの目標：15社	7社		7社		100.0%										25,000	19,719	概ね順調	令和7年度は、企業担当者間のネットワーク・セミナー、コンサルによる伴走支援、補助金による助成を実施した。 セミナー等支援事業利用企業数については、本格始動初年度ということもありやや低調（目標：50社、実績：28社）となったものの、利用者からは概ね好評であり、次年度以降は広報への注力が課題。 新規事業着手等企業成長に取り組む企業数については目標を達成しており、事業全体では「概ね順調」とした。	拡充
市内企業における成長分野等への事業転換、商品・サービスの高付加価値化の推進（ロボット・DX・A Iの活用など）	24	生産性向上、事業変革に向けたロボット・DX推進事業	市内中小企業のロボット導入やDX推進に向けて、ロボット・DX推進センターを中心に、企業の事業変革に向けた重点支援をはじめとした切れ目のない伴走支援を実施することで、稼げる企業を創出する。	中小企業振興課	事業変革実践企業数（累計）	R5	6社		R9年度までの目標：累計50社	30社		19社		63.3%										199,900	191,697	やや遅れ	北九州市ロボット・DX推進センターを中心にロボット導入・DX推進に向けた機運醸成から実践までの切れ目のない支援を実施した。達成率はロボット導入・実践企業は95.3%、DXによる事業変革実践企業は63.3%であったため、「やや遅れ」と判断。	継続
	25	マーケットインプロダクト創造事業	優れた技術や独自のサービス・製品を有し、新事業や新分野への展開を図る中小企業に対し、専門家によるマーケットイン型の製品・サービス開発や販路拡大・営業力強化に対する伴走支援を行うことにより、「稼ぐ企業」への変革を促進する。	中小企業振興課	商品開発に成功した企業又は販路が拡大した企業の割合	—	—		R9年度までの目標：100.0%	100.0%		100.0%		100.0%										10,041	10,028	順調	市内中小企業の持つ技術や商品の特性、開発段階に応じた伴走支援を実施した。 成果目標を達成したため「順調」と判断。	廃止
	26	物価高騰に立ち向かう中小企業等に対する生産性向上支援助成金	物価高の影響により厳しい経営環境にある中小企業等が行う、生産性向上の取組（省エネ投資、効率化・高収益化・DX強化等）に要する費用の一部を助成する。	中小企業振興課	支援企業のうち、生産性向上に取組む企業割合	—	—		R7	100.0%		105.0%		105.0%										30,000	76,845	順調	物価高の影響により厳しい経営環境にある中小企業等が行う、生産性向上の取組（省エネ投資、効率化・高収益化等）に要する費用の一部を助成した。 成果目標を達成したため「順調」と判断。	拡充
市内製造業（部品や素材などのサプライヤー）の事業構造転換の推進（「EVシフト」や「電炉化」などへの対応）	27	電炉化サプライチェーン対策支援事業	世界的な産業の脱炭素化が進む中で、製鉄業における高炉プロセスから電炉プロセスへの転換に伴い、必要・変更となる技術や市内のサプライチェーンを調査し、これまで地元企業が培ってきた独自技術の活用や新たな事業展開を支援する。	中小企業振興課	事業変革・生産性向上等支援企業数	—	—		R9年度までの目標：40社	10社		11社		110.0%										3,080	2,686	順調	市内製造業を中心に、企業訪問し、高炉プロセスから電炉プロセスへの転換に伴い、必要・変更となる技術や企業動向のヒアリングを行った。また、必要に応じ、専門家派遣や補助金をはじめとする支援情報の提供等を行った。 訪問した企業のうち、事業変革等を支援した企業数が、目標の100.0%を達成しているため、「順調」と判断。	拡充

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担 当 課	KPI（成果指標①）								KPI（成果指標②）								R7当初 予算額 （千円）	R7決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性		
					指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値		R7実績値		達成率	指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値						R7実績値	
中小企業の事業承継の推進（M&Aなど）	28	のれん引継ぎプロジェクト事業	後継者不在で悩む個店等の小規模事業者の事業承継を支援するため、民間事業者が運営するマッチングサイトのプラットフォームを活用し、後継者不在の個店と後継ぎ希望者を”ツナグ”ことで、次世代の開業支援と、個店の存続・廃業防止を図る。	中小企業振興課	売り手事業者の掘り起こし件数（サイト掲載件数）	—	—		—	5 件		3 件		60.0%									4,000	3,926	概ね順調	市民アンケートを活用した後継者不在事業者の掘り起こし及び8月、12月、1月にセミナーを実施した。掲載件数は目標とする5件を達成できなかったが、セミナー参加者は66名で目標の60名を超えたことから、「概ね順調」と判断。	継続
	29	事業承継・M&A促進化助成金	地域経済の基盤を支える市内中小企業がこれまで培ってきた技術や知識を円滑に次世代へ承継し、企業の存続・発展につなげるため、事業承継に向けた企業の取組に要する費用を助成し、事業承継の推進を図る。	中小企業振興課	事業承継計画の策定企業数及びM&Aの完了企業数の合計	—	—		—	2 社		4 社		200.0%									3,000	1,550	順調	助成金による支援企業数及び事業承継・M&Aを完了した企業数が目標値に達したため、「順調」と判断。	継続
Ⅱ「彩りあるまち」の実現																											
大型商業施設・商店街の振興	30	商店街プレミアム付商品券発行支援事業	物価高騰の影響を受けている地域の消費を喚起し、地域経済の活性化を図るため、福岡県の助成制度を活用して商店街等が自主的に取り組むプレミアム付商品券の発行を支援する。	サービス産業政策課	消費喚起効果	—	—		—	2倍以上を維持		4.6 倍		230.0%									250,000	212,858	順調	福岡県の助成制度を活用して、商店街等が自主的に取り組むプレミアム付商品券の発行支援を行った。 電子商品券バイチャの登録店舗数は目標値を越えており（目標:2,000店、実績:2,005店）、消費喚起効果も充分維持できていることから、「順調」と判断。 ただし、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用している事業であるため、交付金を活用する他の事業との調整が必要であり、財源の確保が課題である。	継続
	31	商店街テナントリーシング支援事業	小倉都心部等における大規模空き店舗を資産として位置づけ、エリアの価値を高めるため、官民連携して集客力や話題性のあるテナントを誘致し、商店街の活性化と経済の振興を図る。	サービス産業政策課	歩行者通行量（小倉都心部）	R5	138,800 人		R10年度までの目標：156,300人	単年度目標設定なし		148,186 人		—									5,000	4,603	順調	商店街、商工会議所、物件オーナー、北九州市による官民連携の実行委員会を立ち上げ、リーシングに関する勉強会の開催やテナント候補企業への提案書の作成・送付に取り組んだ。 その結果、「大きなシャッターヒラックプロジェクト」の補助金を活用して、2件テナント入居が決定し、まちに新たな賑わいを創出することができたため、「順調」と判断。 今後も、実行委員会が求めるテナントの誘致に向けて、引き続き官民連携で取り組んでいく。	継続
	32	大きなシャッターヒラックプロジェクト	商店街テナントリーシング実行委員会が推薦する話題性・集客力のあるテナントを誘致する際のインセンティブとして、出店テナントに対し改装費等の経費の一部を補助する。	サービス産業政策課	歩行者通行量（小倉都心部）	R5	138,800 人		R10年度までの目標：156,300人	単年度目標設定なし		148,186 人		—									10,000	10,000	順調	商店街、商工会議所、物件オーナー、北九州市による官民連携の実行委員会を立ち上げ、リーシングに関する勉強会の開催やテナント候補企業への提案書の作成・送付に取り組んだ。 その結果、「大きなシャッターヒラックプロジェクト」の補助金を活用して、2件テナント入居が決定し、まちに新たな賑わいを創出することができたため、「順調」と判断。 今後も、実行委員会が求めるテナントの誘致に向けて、引き続き官民連携で取り組んでいく。	継続
	33	魅力ある商店街づくり支援事業	商店街活性化の担い手となる人材育成や、商店街間の連携強化、新たな情報発信等により、商店街の人材力・組織力を強化し、持続可能で魅力ある商店街づくりを目指す。 また、商店街の空き店舗の有効利用促進や、新たな取組を支援し、商店街活性化を促進する。	サービス産業政策課	受講者によるイベント企画件数	—	—		R11年度までの目標：20件	4 件		5 件		125.0%									26,000	24,954	順調	空き店舗への開業支援等の補助事業に加え、商店街活性化の担い手となる人材育成や商店街間の連携強化の取組を行った。 その結果、担い手人材育成事業の参加者数が（目標：20名、実績:64名）と目標を大幅に上回り、企画創出も達成したため、「順調」と判断。 今後も、新たな情報発信等を通じて、商店街の人材力・組織力の一層の強化を図り、持続可能で魅力ある商店街づくりを推進する。あわせて、商店街における空き店舗の有効活用の促進や、新たな取組への支援を進めることで、商店街の活性化をさらに後押ししていく。	継続

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担当 課	KPI（成果指標①）								KPI（成果指標②）								R7当初 予算額 （千円）	R7決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性		
					指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値		R7実績値		達成率	指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値						R7実績値	
	34	紫川エリア活 性化支援事業	商業の振興とまちの活性化 を図ることを目的として、小 倉の中心市街地を流れる紫川 河畔を拠点とし、都市の回遊 性の向上及びナイトタイムエ コノミー（夜間における経済 活動）の創出に寄与するイベ ントを実施する事業者に対し 補助金を交付する。	サービ ス産業 政策課	観光消費額 （北九州市 観光動態調 査：毎年）	R5	1,004	億円	R10年度 までの 目標： 1,700 億円	単年度 目標設 定なし		集計中 （R8.秋 頃公表 予定） （R6： 980 億円）		—									11,780	10,000	順調	補助制度の公募を行い「KOKURA CHRISTMAS MARKET&CASTLE」を採択し、支援を行った。 企画段階での来場者数目標150万人を上回る153万人であったことから、「順調」と判断。 イベントを継続的に実施することで、イベン ト認知度を高め、北九州市の新たな風物詩企画 となるよう、今後も支援していく。	継続
	35	ナイトタイム エコノミー推 進プロジェク ト	本市への来街者に夜まで楽し んで消費してもらうため、 「外需取込み（インバウンド やアフター コンベンション） 」「内需拡大（市民の新 たな楽しみ）」に向けた繁華 街の魅力向上支援を行う。	サービ ス産業 政策課	宿泊客数 （北九州市 観光動態調 査：毎年）	R5	185.2	万人	R10年度 までの 目標： 240万人	単年度 目標設 定なし		集計中 （R8.秋 頃公表 予定） （R6： 189.3 万人）		—								6,000	5,290	順調	ビジネス客・観光客といった来街者や市民に よるナイトタイムエコノミー（消費拡大・滞在 時間延長）を推進するため、イベント支援・新 規出店支援などを行った。 その結果、イベント補助金は6件、出店補助 金は1件採択に繋がったため、「順調」と判 断。 今後も、地元団体等と連携し、小倉都心部繁 華街の魅力向上に取り組んでいく。	継続	
	36	黒崎地区活 性化支援事業	商業の振興とまちの活性化 を図ることを目的として、黒 崎地区の魅力向上、活性化に つなげるイベントをする事業 者に対し補助金を交付する。	サービ ス産業 政策課	観光消費額 （北九州市 観光動態調 査：毎年）	R5	1,004	億円	R10年度 までの 目標： 1,700 億円	単年度 目標設 定なし		集計中 （R8.秋 頃公表 予定） （R6： 980 億円）		—									10,000	10,000	順調	補助制度の公募を行い、「フードフェス＆ マーケット」を採択し、クロサキスイッチの目 玉事業として、支援を行った。 企画段階での来場者数目標30万人に対し、23 万人と下回る結果となったが、Instagramの閲 覧が271万を超えるなど、市内外への魅力発信 に繋がったため「順調」と判断。 イベントを継続的に実施するとともに、地元 事業者との連携を深め、黒崎地区活性化に繋がる よう、今後も支援していく。	継続
都市ブランドの確立（ポ ジティブな情報発信によ る北九州市のイメージ アップ）	37	地域の人事部 支援事業	若い世代の人材不足が強ま るなか、採用にコストや人を 割けない中小企業では、人材 確保が困難な状況にあるた め、企業合同による人材の発 掘からマッチングづくりを一 気通貫で支援し、若手人材の 確保と定着を図る。	雇用・ 産業人 材政策 課	最終選考候補者数	—	—		—	30人		20人		66.7%									25,000	24,887	やや 遅れ	市内企業の人事担当者と市内外の大学生が交 流を深めるワークショップを全14回実施した。 それに加え、参加企業の福利厚生や働きやすさ 等の自社の魅力をPRする「福利厚生コンテス ト」や、学生と企業との運動会を開催するな ど、学生の地元就職への確度を高めるプログラ ムを展開した。 地元企業の認知度を高めるとともに、地元就 職にも着実に繋がっているが、最終選考候補者 数が20人となり、目標値である30人に届かな かったことから、「やや遅れ」と判断。	継続